2017 年よりインクカートリッジ里帰りプロジェクトを通じて、
日本野鳥の会の保護活動へのご支援をいただいています。この報告では
日本野鳥の会の2025 年度の保護活動の成果やトピックをご紹介します。

2025 年度 保護活動トピック

1 野鳥を守る活動

●IUCN（国際自然保護連合）主催の会議で当会の動議が採択されました

総会での議論と投票に臨む当会職員

プラスチック汚染から海鳥を守る活動に取り組む当会は、2025 年 10 月にアラブ首長国連邦のアブダビで開催された「世界自然保護会議」に参加し、米国のＮＧＯと共にプラスチックの生産削減と、法的拘束力のある国際条約の迅速な策定などを求める動議を提出しました。総会前の作業部会では「生産削減」の言葉に一部の国から反対意見が出されましたが、賛同者を増やす努力を行った結果「プラスチックの一次生産（および消費）を持続可能なレベルに削減する」という表現で合意し、採択に至りました。採択された動議はIUCN の政策として各国の自然保護政策にも影響を与えます。当会も今後の政策提言活動に活かしていきます。

●国内初、伊豆諸島で繁殖するオーストンウミツバメへのプラスチック由来の化学物質の蓄積が明らかに

オーストンウミツバメ(絶滅危惧ＩＢ類)

プラスチック汚染の海鳥への影響を調べるため、当会と東京農工大学は 2022 年からオーストンウミツバメを対象とする共同調査を行なっています。本種の国内最大の繁殖地である祇苗（ただなえ）島で実施した調査では、羽毛の手入れの際に利用する尾腺（びせん）からの分泌物質（尾腺ワックス）を分析したところ、採取した 13 羽すべてから毒性のある化学物質（PCBs と DDE）が検出され、4 個体からはストックホルム条約で製造・輸出入・使用が規制されている UV-328 を含む有害なプラスチック添加剤が検出されました。これらの物質のウミツバメ類での確認は、国内では初めての知見となります。今後はジオロケーターなどを用いて、本種の利用海域を明らかにするとともに、汚染状況のモニタリング、他の海鳥での情報収集を行っていきます。

2 自然の大切さを普及する活動

●ウトナイ湖の子どもサポーターが「日本鳥学会大会」で研究成果を発表

発表を行った子どもたちと当会職員

当会が 1981 年に苫小牧市に設置した国内初の自然系施設「ウトナイ湖サンクチュアリ」では、地域住民約 40 名がネイチャーセンターサポーターとして調査や保全活動に参加しています。2025 年 9 月に札幌で開催された「日本鳥学会 2025 年度大会」では、当会職員のサポートを受けながら、小・中学生、高校生 12 名が、センター周辺の森林・草原・湿原で毎月行っているスポットセンサス調査の結果と、40 年前のウトナイ湖の鳥類データを比較した結果を発表しました。学会参加者からの質問にも子どもたちが答え、激励の言葉をもらっていました。こうした体験が、子どもたちの学びと成長、そしてウトナイ湖の自然を守る次の担い手の育成にもつながっています。

●園児たちと取り組むシマフクロウのための森づくり

レンジャーと植樹する園児たち

当会は 2010 年より根室市の根室カトリック幼稚園と「天使の森（エンゼル・フォレスト）」計画を進めています。この計画は、子どもたちが日本有数の野鳥生息地である根室の自然を大切に守り、郷土への愛着を深めてほしいとの思いと、シマフクロウがすめるような 100 年後の森を、世代を超えて育てようと始めたものです。これまでに 2 カ所の野鳥保護区内で、のべ 450 人以上の園児たちによってミズナラやハルニレ、ヤチダモなどの在来種約 1200 本を植樹し、2025 年 5 月には予定していたエリア全ての植樹が完了しました。8 月には、北海道のレンジャーたちと同園の先生方で、新たな植樹地に苗木をエゾシカから守るための柵を設置しました。次年度以降も引き続き 500 本以上の苗木を園児たちと一緒に植えていきます。

日本野鳥の会の活動や上記の保護活動等の詳細はこちらから！ https://www.wbsj.org